

## 2025\_0216 「西の空の波状巻積雲（写真）」日々の理科 3846号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

空の雲は、いわゆる「十種雲型」という基準で、おおまかに分類されます。およそ低層から高層に向かって、層雲・層積雲・乱層雲・積雲・高積雲・高層雲・積乱雲・巻積雲・巻層雲・巻雲の十種類です。そのほかにも「派生雲」という分類があり、「形容詞」のように各雲型を細かく分類しています。

「雄大雲」「葵状雲」「幕状雲」などいろいろとありますが、中でもよく見かけるのが「波状雲」という派生雲の一群です。「波状層積雲」「波状高積雲」「波状巻積雲」といった具合に名称がつけられます。昨日も、写真のような波状雲が東京上空に出現し、友人が写真を送ってくれました。

これは「波状巻積雲」といって、対流圏上層部（7.000m以上）に現れる「巻積雲（うろこ雲・いわし雲）」の一種で、すべて「氷晶」の雲です。白く見えるのは光を透過するほど「薄い」からで、この波状巻積雲自体が雨や雪を降らせることはありません。しかし波状雲は、上層大気の流れに上下の「うねり」がある時に出現しやすく、天気はゆっくりと下り坂になることが多いです。事実、この翌日には関東地方南部の天気は崩れました。雲の種類や派生型、それに動きを観察することで、天気変化を予測できるのは、とても面白いことですね。

(2025年2月中旬／東京都豊島区／友人撮影)

